

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

December 2023

Écoutez Bien Vol.40 No.465

12

がんばれ、日翔志関!



表紙／パレスと過ごした日々(曙町)



立飛麦酒醸造所

TACHIHI BREWERY

受賞ビールを堪能する

今月は「食べる」ではなく「味わう」で。

世界的なビール品評会「World Beer Awards 2023」で金賞と銅賞を獲得したビールあり。

ビールは夏だけのものじゃない。冬に向けて黒ビールも仕込み中。

立川でビールと一緒に季節も味わってみませんか。



PILSNER
ピルスナー



KOLSH
ケルシュ



PALE ALE
ペールエール



WEIZEN
ヴァイツェン



「立飛Pilsner」は、ラガーカテゴリーのチェコスタイルピルスナー部門で日本最高の「カントリーウィナー」と、世界最高のワールドベストの2つの金賞を受賞したビール。

ビールと料理のマッチングを愉しみながら、秋の夜長を過ごすって、いいじゃないですか! 醸造所併設のタップルームでは、いろいろな味を飲み比べることができます。「飲んだら乗るな」ですよ。

立飛麦酒醸造所

立川市高松町 1-23-14

TEL 042-527-1894 (受付時間 9:00~17:00)

定休日 火・水曜日

GREEN SPRINGS SORANO HOTEL 横キッチンカーで
ビール販売中。木・金・土・日の11:00~16:00。

国立極地研究所 創立50周年記念

地球を知る

地道な観測の積み重ね

この秋出発する65次隊で、また南極へ向かう。
何度も南極へ行っているのに、昭和基地へはほとんど行ったことがないのだそう。
船と野外キャンプばかりというフィールド系の典型。

——地学をやる先生は山岳部のイメージです。白石先生とか本吉先生とかみたいです。

外田 私は必要だから山に行きますが、趣味ということではないです。

——地圏と言いますが、地質と地学といういろいろあるんですよね。

外田 地圏というと極地研の中では固体地球物理学というのが大きく、その中に、測地、地震、地磁気・岩石磁気、など様々な分野があり、固体地球物理以外に、地質、隕石、さらに地形・第四紀という地球環境変動にかかるホットな分野があります。私は地質に属しますが、地質と言っても岩石もあれば鉱物、古生物とかいろいろな分野があり、私は岩石です。

——地圏はちょっと地味なイメージですよね。

外田 小さな進歩の集まりでようやくここまで来たという感じですね。オゾンホールが発見のような大きな発見というのはたぶん無いのではないかと思います。地圏というのは南極大陸そのものを調べるということが一番始めにありました。そのこと自体はすごい進歩があったと思っています。60年前に南極観測を始めた頃というのは、南極大陸がどういう石でできているか、どういう歴史を持っているかということが全く何もわかっていなかった。最初に行った人は「こういう石が出ているな」と、やがて「昭和基地の近くにはこういう石があるな」と、さらに「少し離れたところにはこれがあって」と、何もわからなかったところから、今では南極大陸にはこういう歴史がありますと言えるところまでこの50年間で理解したことは、やっぱりすごいことだなと思います。

——本当にすごいことですよ。

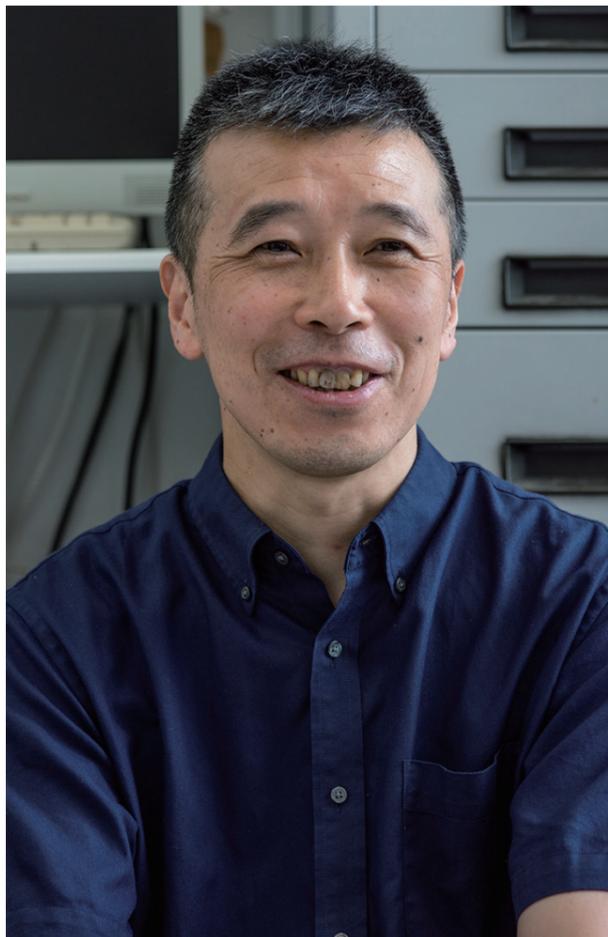
外田 ええ。地球上で南極以外の他の地域は1800年代から研究の蓄積があるのに対して、南極は1950年代に南極観測が始まってからです。石にしても地形にしても氷もそうですし、すべてこの半世紀あまりで明らかにしてきたというのは、すべて大きな発見だったと思います。

——いずれの先生も、まだまだわかっていないとおっしゃいます。

外田 ゼロから始まったことがようやくわかってきたということですね。例えば日本の地質と比べると、南極の地質はたぶん全然わかっていないレベルだと思います。みんなわかった風に言うのですが、日本の地質の理解レベルまでは至っていない。南極に調査に行く度に理解は新しくなっているのですが、ではどのくらい新しくなっているのかと言われれば難しいところはあります。

——先ほど地球環境変動にかかるホットな分野というお言葉がありました。

外田 第四紀地形地質のことです。第四紀というのは、今から200万年くらい前からの一番新しい地質時代区分のことで、先月の藤田さんのお話にもあったアイスコーからは



過去70万年の気候変動がわかりますが、アイスコーとオーバーラップしつつさらにもう少し、数百万年古い時代まで遡る情報を固体地球圏から探るのが第四紀という研究分野です。

——はい。

外田 最初にわかるのは地形です。現在からつながる情報が一番残っているところですから。表面に出てくる石の分析をすることによって、氷から表面に出てどのくらい時間が経っているのかとか、高い所と低い所で表



ネットでも公開しています

面に出ている時代が違ったりすると、どちらが先に氷から顔を出したのかなとか、そういうことがわかります。湖とか海の堆積物を氷床コアと同じように取ってみると、氷床コアは70万年ですが、さらに百万年、一千万年という古いレベルのことがわかり、そこから現在の気候変動につながる話ができる、ということですね。地圏の中で一番今に貢献できる分野です(笑)。

——外田先生の研究とかは?

外田 我々のはね、5億年前、10億年前で、もう関係ないんですよね、今の地球には(笑)。ただ、まあアイスコーや第四紀・地形よりもさらに古い過去の地球を調べるという研究です。

——過去がわかっていくんですね。

外田 過去にあったことしかわからない。地圏には、過去のデータをモデル計算し、それに基づいて将来予測につなげようとするモデリングの研究者もいます。そうした研究につなげるためにも過去が正確にわかることは大事です。

——堤先生もおっしゃっていました。

外田 天気予報って、あれも過去のいろいろなパターンから予測してやっているんですよ。同じように、地球の将来予測に過去を知っていくことは重要なことです。

——どのグループにもうかがっていることですが、地圏の50年で何がわかったのでしょうか。

外田 南極大陸の大部分の骨格が5億年前にできた、それがわかったのが私の関係する地質の中では一番大きなことになると思います。それは1980年代の終わりから1990年代くらいに、前々所長の白石先生が、——白石先生も地圏でいらっしかったですね。

外田 はい。その白石先生がオーストラリアに在外研究で行く機会があって、そこでシュリンプ(SHRIMP)というオーストラリア国立大学で開発された最新鋭の分析装置

外田智千さん

1970年生まれ。4部門(宙空圏、気水圏、地圏、生物圏)のグループ長メンバーの中では一番若いグループ長。京都出身、大学まで京都、大学院博士課程で極地研に。農学部に入學して理学部に転籍するという珍しい経歴は自分くらいかと思っていたら、極地研には他にも複数いた。理学部では石の勉強をした。野外を歩き回って石を見るのも好きだったし、顕微鏡をのそくのも好きだった。そこで指導してくれた先生が極地研の委員をしていて、南極に興味あるか?と言われた。地学をやる人には変な所に行きたがる傾向があり、ぜひとも南極へ行かせてもらいたい。行かない手はないと26歳の時に38次隊で初めて南極へ。その後南極へは6回、この冬65次隊でまた南極へ行く。

面にアクセスする機会というか共同研究をするチャンスがあって、そこで南極の石を分析したんです。すると信頼できる数字として初めて5億年という数字が出て、じゃあ、もしかして南極大陸ってこの5億年というのがあちこちにあるんじゃないかなと。そういう目で見だすと、本当に広い範囲に5億年(前の石)があるのがわかって、それを確認しつつ、そうでない部分も調べてというのが90年代です。

——すごい発見だったんですね。

外田 当時は今と比べて相当興奮があったと思うんですね。石の中のジルコンという鉱物をシュリンプで分析したら、この石は5億年前にできたものですよということがわかったんです。

——そのシュリンプって、極地研にもありますよね。

外田 あります。白石先生がこれはすごい装置だから、ぜひ日本にも欲しいということで、極地研に入れるために相当な努力をなさったと思います。

——装置や機械の進歩もあったんですね。

外田 白石先生がオーストラリアに行かれたのが、ちょうどタイミングよく、シュリンプが開発された直後だったんです。

——地圏にはほかに隕石もありますよね。

外田 太陽系と地球は同じ頃にできたのですが、隕石は地球にならなかったもの、ですね。だからそれを調べると太陽系とか地球ができる前のことがわかる。でき始めのことがわかるんです。地球は46億年前にできたのですが、その後の変動で当時の情報は何も残っていない。隕石を調べれば46億年前のことがわかる。地球の歴史の一番若いところは先ほど話した第四紀の分野で研究しているし、その間の地球の長い歴史は地質や岩石が埋めている。そして、今現在のリアルタイムで起こっていることを研究するのが固体地球物理学なんです。——リアルタイムといえば、南極の氷って

ずっと動いているんですよね。

外田 ええ、ずーっと動いています。だから南極点にある旗も、定期的に移動させないと本当の南極点からずれていきます。そういう意味でいうなら、我々には感じられないのですが、岩石部分もちょっとずつ動いています。5億年前の Gondwana 超大陸のように動いていくし、マントルが対流しているのでその上に載っているプレートも動いている。全部動いているんですね。時間スケールが、氷は速くて石は遅いということです。今現在の動きや変動、それを研究しているのが固体地球物理学ですね。

——こう説明していただくと地圏も面白いです、やっぱり地味ですが。

外田 4つの分野でも生物はペンギンがいたりしてアビールしやすいし、超高層にはオーロラがありますよね。雪氷には氷がありますし。地圏はおっしゃる通り地味で、やっている人間も地味なんです(笑)。でも、隕石なんかもってアビールできるでしょうね。——科学館にある火星とか月の隕石はすごいじゃないですか。

外田 そうなんです。本当に珍しいもので、NASAとかに行かないとないものを、月や火星起源のものを、科学館にサラリと展示しているんですね。

——もったいない。地学の50年、すばらしいと思います。未来についてはどうでしょう。

外田 地道にやり続けてきたことをこれからも続けていくということですね。データの蓄積ではじめてできる話もあるはずですから、南極観測は続けることが大事です。昭和基地は南極の中でも周囲に他国の基地の乏しい貴重な観測点のひとつです。30年とか50年とかいうデータの蓄積がここまで取ってあるところは他にない。昭和基地の観測データは、観測の種類が全部網羅されているということで注目されています。今後もしっかり観測データを蓄積することが重要です。

立川初の関取 日翔志忠勝

遅咲きではあるけれど、頑張りたい

社会人を経験した。ケガもあった。父が急逝した。
迂回の先の挑戦を、地元立川は応援したい。



プロに行くなら大学は必要ないときっぱり言う
高校の同期に関脇 琴ノ若がいる

生まれは武蔵野市。立川市立上砂川小学校卒業。中学時代、相撲留学で新潟へ行くも、卒業したのは立川第五中学校。柴崎町にある練成館で5歳から相撲を始め、進学したのは相撲の強豪、埼玉栄高校。

プロに進む気持ちはなかった。日大相撲部に憧れて日本大学へ。猛者の揃う日大相撲部はきついことも多かった。その中で稽古を重ねてきたが、縁あって日本大学事業部へ就職。社会人の経験をしながら、その生活に物足りなさを感じて、やはりプロの世界へ行きたいと思うようになった。大相撲の世界へ飛び込むことを、父も兄も反対した。せっかく安泰な道を得たのに、それを捨ててまでもこれからプロの道へ進むのはどうか、と。反対されても一般の社会人生活はつまらなかった。自分には合わないと思った。

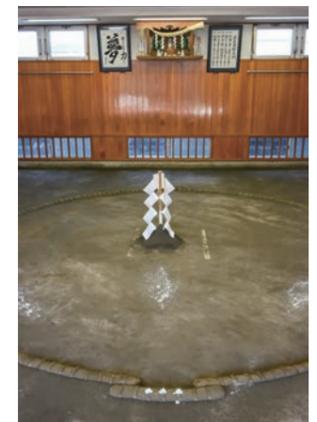
日大出身者の多い追手風部屋へ。2021年5月場所で初土俵を踏んだ。23歳だった。翌名古屋場所(7月)は5勝2敗、秋場所(9月)は7戦全勝で序二段優勝。しかし、場所後の稽古で首を痛めてしまう。大変なケガだった。脊椎損傷とまで言われ、完全に下半身は麻痺し、私生活もできなくなり寝たきりとなってしまう。11月の九州場所から3場所連続全休。さらに休場中の昨年3月、父が57歳で急逝。本当にどうしようかなと悩んだ。もうやめちゃおうかなと、一時は引退も考えた。

いろいろな医療機関で、いろいろな治療を試みた。手術はできないと言われ、すれば二度と相撲はとれないとも言われた。何がよかったのかはわからないが、奇跡的に5~6か月後、痺れがほぼ消えて、もしかしたらやれるかもしれないという希望が見えた。師匠を始め、周囲の支えがあって今がある。稽古は自分の体調や様子を見て師匠が言ってくれるので、立ち合いの稽古はせず自分の調子で取り組んでいる。

幕下優勝は師匠も母も、みんなとても喜んでくれた。自分も本当に嬉しかった。「立川で初めての関取と言われることが一番嬉しい」と。プロに入って3年目の今、この道を選んでよかったと思っている。十両は甘くないと言われるが、一日一番、体力は大丈夫だと思うが精神的に保てるかが勝負、それでもやるしかないし頑張ると静かに決意を語ってくれた。



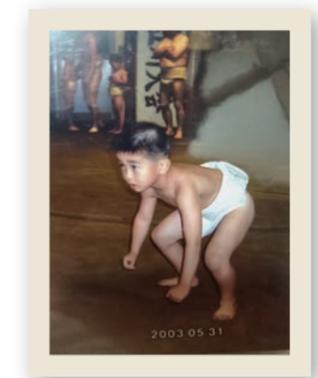
「お相撲さんの作る料理は、普通のおかずもちゃんこと言うんですよ、知らなかったんすか？ 勉強不足ですね」と笑った



強くて人気者の関取が
名前を連ねる



えくてびあんに日翔志忠を紹介してくれた田中肇先生
〔富士見町の「はじめ治療院」〕
「先生にはものすごくお世話になりました」と日翔志忠



練成館で相撲を始めた頃(日翔志忠提供)

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
 今日は 羽衣町・錦町・柴崎町・立川市外のお店です。

- 羽衣町
- 額縁専門店 プリムベール 528-6789
- 多摩信用金庫 東立川支店 524-0611
- まごころ銘茶 狭山園 527-0146
- ギンヤレストラン SHUPOUL 519-3923
- 林歯科医院 522-5657
- 新鮮野菜・惣菜 立川商店 522-3565
- 本・事務用品 泰明堂 522-3353
- 本と文具 ないとう 522-3677
- 赤松タバコ店 524-7852
- BB TAKAOKA 521-0236
- お好み焼ともんじゃ焼 こけし 526-1267
- 立川熟成鶏かせ蕎麦たかや 595-6922

- 錦町
- 鳥料理 くし秀 522-7692
- 寿司勝 522-4874
- イタリア料理 トラットリア ドンジェ 512-8735
- 中国料理 五十番 522-7472
- 一六珈琲店 527-1680
- 手づくりみそ 材料専門店 北島こうじ店 524-3190
- new gyoza 1059 餃子天国 526-2283
- パー パル アラディ 523-3917
- CAFE SOMMEILLER 527-1440
- 康復中国気功整体院 529-1088
- 日本クッキングスクール 522-3440
- 元祖5本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616
- ホテル日航立川 東京 521-1111
- 美容室 アリス 525-1100
- FALCO hair 528-2389
- N HAIR WORLD 523-5336
- 創作料理 cafe & bar 厨~kuriya~ 595-7449
- 立川駅泌尿器科皮膚科クリニック 548-8802
- TTM (株) 524-5787
- クラウンペーカリー立川店 526-2226
- 王道流空手道 佐藤塾 548-7460
- 三田花店本店 524-4187
- いわずき痛みの整骨院 529-5123
- にしやま薬局 525-9212
- たましん RISURU ホール 526-1311
- 多摩信用金庫 錦町支店 528-0511
- パン工房 グラティア 512-8667
- そば処 高尾亭 522-2710
- Natural Food Restaurant ジェいなほ 529-5921
- Garden & Crafts café 0120-41-2877
- 至誠学舎立川 527-7734
- 至誠ホーム 527-0031
- 至誠介護相談センター 527-0321

- 柴崎町
- 諏訪神社 522-2968
- バスタビーノ はしや 521-3386
- 高島ビル 526-0111
- Hair Room MOON ZETTON 523-0961
- 南武堂剣道具店 527-0197
- ビジネスホテル 小沢屋 523-0388
- トーク・スペース 527-1636
- (株) 一心堂 527-3777
- すがの歯科 540-2675
- あすなろクリニック 529-2756
- ピストロこづ 525-9929

- 立川市外
- 昭島市
- ECO'S 昭島店 546-3710
- 武蔵村山市
- 中国料理 菜 561-7233
- 国分寺市
- パンの店 fermata 534-3334

jorakugajo
 真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch
 スカパー！で放送の常楽我浄は
 スマホアプリ「スカパー！番組表」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch
 放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

詳しい内容は「note えくてびあん」をご覧ください。
 QRコードからもアクセスできます。



感動を呼ぶ「出張授業」

10月1日、「HEART Global JAPAN TOUR 2023 AKI」がアリーナ立川立飛で開催されました。世界共通言語である音楽を媒体として、子どもたちが共に学び、お互いの個性を尊重しあい、さらには自分の可能性を発掘する、様々な国籍のキャストによる出張授業を繰り返し、この大きな舞台へとようやくたどり着くことができました。今後はこれを立川に定着させていきたいとボランティア代表 田澤泰子さん。詳細はnote えくてびあんをご覧ください。



初めて出会う人たちとすっかり1つの心になって



首都メア市ボドゥー中学校の生徒18名と先生方 防災館で

来年は30周年

10月2日から16日まで、ニューカレドニアから中学生18人と先生2人が立川を訪れ、文化交流を深めました。立川第四中学校を中心に、ニューカレドニアの中学生との交換留学が始まって29年。今年は企業の支援も得て、30年を迎える来年はもっと多くの方々との理解と協力、応援を期待する主催者たちでした。ホームステイの受け入れご家族は、まさに草の根文化交流ですね。

祝50年 航空祭

10月29日、4年ぶりの航空祭でした。9時の開門から大勢の人がカメラ機材を抱えて集まってきました。立川駐屯地創立50周年の記念式典でしたが、以前よりコンパクトでスマートになった航空祭。災害時には大変お世話になる自衛隊。駐屯地指令の挨拶の中に「国民の安全安心な生活と、日本の平和と独立を守るため」という言葉がありました。緊張高まる世界情勢に、願われるのは「LOVE&PEACE」。平和を祈るばかりです。



椅子の向きが変わるところ noteに動画もあります



中央線のグリーン車公開

10月18日、来春の運行に先立って中央線グリーン車の報道公開がありました。実際に豊田電車区から東小金井駅までの乗車体験も。到着駅では椅子の向きが自動で変わります。例えば東京駅に到着後お客様の乗降入れ替わりの短い時間に向きを変えるため、自動で行われます。今は珍しい風景も、来年春以降は当たり前になりますね。



10月4日 大人も子どもも楽しい時間でした

よいと祭りがにぎやかに

一連の流れは例年と同じでしたが、秋の入口に開催したことで夕暮れが早く、流し踊りの途中から周囲はすっかり夕間暮れ。おかげでお神輿の提灯が映えること、映えること。最後を飾る松明回しは、御年93歳の豊泉喜一さんがトリ。やっぱり優雅さの中に貫禄がありました。



10月14日

世界相撲選手権大会

10月7日、8日、9日の3連休。アリーナ立川立飛とドーム立川立飛を使って、世界相撲選手権大会が開催されました。世界の相撲人口って多いんですね。競技人口は日本より多い国もあるそうです。把瑠都や黒海、魁聖、それに小錦なども来場。立川といえば相撲、相撲と言えば立川です。



10月15日撮影

超たまらん博

多摩地域が神奈川県から東京府に移管されて130年。多摩の魅力を発信するイベントでした。10月28日と29日、とにかく人がいっぱいという印象でしたが、多摩の魅力はかががでしたか。



強いダイス!

第3節を終えてランキング2位の立川ダイス! 確実に強くなっていて、確実にファンを増やしています。10月21日、22日の両日とも3000人を超える来場数。地鳴りのような応援にこたえて22日は三桁111点を奪取。今年は期待しています!



キャプテン森黄州のシュート

立川で「歌舞伎」



立川にいよいよ「歌舞伎」も仲間入り。10月25日から28日まで『立川立飛歌舞伎特別公演』が開催されました。初めて歌舞伎に触れる人も楽しめる公演でした。桜吹雪の中を宙乗りで行く子ぎつねに涙した人もいました。立川に歌舞伎も定着するといいですね。

楽しく続数研

10月29日、統計数理研究所の子ども見学デーがありました。難しそうに見える統計を、わかりやすく面白く教えてくれる楽しい企画です。10万個ある白黒玉の黒の数を統計で知る。ぜひやってみて!



パキケファロ サウルス

今秋、初のお目見えがパキケファロサウルス。棲み処のGS内を我が物顔に練り歩き。ユニークな石頭恐竜に次はいつ出会えるかな。



箱根駅伝予選会

来年の箱根駅伝は100回記念大会。号砲で一斉スタート。途中先頭集団での転倒もありましたが、えくてびあんのカメラが待つ立飛駅、外国籍の選手の後を集団走でタイムを伸ばそうというチームがいくつも抜けていきました。



10月14日

表紙

共に歩んだ29年の日々

「新しい立川」のランドマークでもあったパレスホテル立川が、2023年12月31日をもって、その歴史を閉じます。1994年10月、「立川のためにここで頑張ってもらいたい」と当時の青木久市長から祝辞を受けての開業。気品ある結婚式や披露宴、美しい客室、おいしい料理、まごころももるおもてなし。アートとコラボしたケーキや、早くから取り組んだ地産地消、生ごみリサイクルの取り組み、街とひとつになる地域貢献は総支配人が代わっても、総料理長が代わっても受け継がれて今があります。何よりも皆が惜しむパンケトルーム。パレスに代われるところはない、それが現実です。えくてびあんもお世話になりました。人が人と呼んで、大変な人数になった「えくてびあんパーティー」。いつも主催者のえくてびあんの側に立ってご協力いただき、お客さまに喜んで帰っていただいた、そんな思い出の詰まったローズルーム。名残惜しいですが、あと約ひと月。ゆっくり楽しませていただきます。ありがとう、パレスホテル!

かたこと

◆10月はイベントが目白押しでした。リアルタイムでご覧になりたい方は「多摩でぼこネット」を、ゆっくり振り返りたい方は「note えくてびあん」をご覧ください。まとめサイトのようにになっていますが、紙面に載せきれなかった情報はnoteにアップしてあります。もちろん動画も併せてどうぞ◆短い秋でした。真夏日から一気に冬へ。四季のない日本になりそう。極地研の先生たちが教えてくれる地球の現状。「立川の研究者たち 極地研バージョン」のプレゼントは、想像以上に希望者が多く驚きました。やはり「地球の今」は皆さんの関心事なのですね◆超たまらん博に人が集まりました。町田、八王子、奥多摩で熊の目撃情報がこの秋100件以上あったとか。いずれも多摩に属する地域。自然と共存できる道を模索するのが多摩の暮らしかもしれない◆町田といえば「町田ゼルビア」。J1に昇格したサッカーチームです。すごいじゃないですか! それこそ多摩の魅力です。立川ダイスがBIに昇格する日を楽しみに、多摩の中心で立川も頑張らしましょう。えくてびあんも頑張ります。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨
 12月号 第40巻 通巻465号

令和5年12月1日発行
 発行 有限会社えくてびあん
 〒190-0023
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
 E-mail message@tamatebakonet.jp
 URL https://www.tamatebakonet.jp
 発行人 黒須 環
 企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
 デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
 印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

あの頃の立川

創刊から40年——⑦

1990年2月



えくてびあんの写真から

1990年2月22日に撮影した写真です。同じ日に撮った他の大雪写真は QR コードからご覧ください。1月31日から降り続いた雪は2月1日午前には、八王子で26cm、都心でも11cmの積雪となり、翌日の22日はどこもかしこも雪かきに追われている様子でした。

1990年は立川が市制50周年を迎えた年。1987年に「立川駅北口駅前土地区画整理事業」の地元説明会が行われ、1990年1月、同事業計画を決定。駅前広場を含めた5.7ヘクタールの区画整理事業に着手した大きな節目の年でした。写真にはまだ幹も枝も細いケヤキ並木が写り、背景にはペDESTリアンデッキはありません。ペDESTリアンデッキと言えば、最初のアーチは赤でした。それもご存じない方が多くなったでしょうか。

この年から、立川は多摩の中心都市としての役割を担うべく大きく変わっていきます。まずは賑わいに。経済を活性化、基地の街のイメージを払拭し安全・安心な街づくりに取り組みました。33年経った今、立川の賑わいは多摩随一、さらにスポーツ・文化・芸術に、そして10月には400年の歴史を持つ歌舞伎も立川に色を添えました。これからも、立川は厚み、深みを増して成長していくのでしょう。人々の心もついていきたいと思ひます。

他の写真はこちらで

